

結婚の奥義

(エペソ5・21～33)

一、結婚とは何か？

結婚とは何なのでしょう。それを語っているのは、創世記です。創世記は神話ではなく、神の啓示の書です。もし創世記がなかったら、神が造られた人間は、男と女であることが分かりません。もちろん、これに当てはまらない場合もあると思います。だからと言って、男と女以外に「性のスペクトラム」と言われるようですが、「男男女女」「男男女女」「男であり女でもある」という性があることはできません。仮にそのような方がいたら、受け入れて大切にすることがあると思います。ですが、それらを標準にしてしまうことはできません。なぜなら創世記に、**「神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された」とあるからです。**創世記が、ユダヤ教やキリスト教が成立した時点においては意味があったけれども、今は大きな意味はないと考えるなら、様々な今日の考え方を受け入れる選択肢もあると思います。ですが、創世記は神の啓示の書です。啓示とは、隠されていたものを神ご自身が明らかにされた、という意味ですから、人間が発見したという意味ではありません。

男と女の話はここまでにして、結婚について、創世記に聞いてみたいと思います。

創世記2章18節にこうあります。《**また、神である主は言われた。「人がひとりであるのは良くない。わたしは人のために、ふさわしい助け手を造ろう。」**》こうして、2章21節より23節です。《**神である主は、深い眠りを人に下された。それで、人は眠った。主は彼のあばら骨の一つを取り、そのところを肉でふさがれた。／神である主は、人から取ったあばら骨を一人の女に造り上げ、人のところに連れて来られた。／人は言った。「これこそ、ついに私の骨からの骨、私の肉からの肉。これを女と名づけよう。男から取られたのだから。」**》神が人(アダム)のあばら骨の一つを取って、そのあばら骨から一人の女を造り上げたという表現は、多分に古代人的な物言いかと思えます。もちろん、そのまま信じておかまいませんが、私はむしろ、そこにあらわされている意味を受け取ったらよろしいかと思えます。そして24節に**《それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである》**とあります。「ふたりが一体となる。心と体において」。これが結婚の奥義、すなわち隠されている意味です。そついうわけで、結婚は神がつくられたもので、善いものである。これが、エペソ書5章31節の元になったことは

です。エペソ書に戻しましょう。

二、「互いに従いなさい」

21節の**《キリストを恐れて、互いに従いなさい。》**ですが、夫と妻となったふたりには「キリストを恐れて、互いに従いなさい」と語られています。「従いなさい(ヒュポタツシ)」は、辞書によれば、元々は軍隊用語で「指揮下に従属させる」という強い意味です。ですから直訳的には「キリストを恐れて、互いに従属しなさい」の意味になります。パウロが語った意図は、結婚は神がつくられたものであるから、夫と妻が結婚関係に入ったなら、キリストを恐れて互いに服従し合う強い絆を持つことが必要である、という意味合いで語ったものと思われまます。

22節を見てまいります。《**妻たちよ。主に従うように、自分の夫に従いなさい。》**とあります。妻たちに対する教えと思いきや、23節、24節は、キリストと教会のことが絡むようにして語られています。《**キリストが教会のかしらであり、ご自分がそのからだの救い主であるように、夫は妻のかしらなのです。／教会がキリストに従うように、妻もすべてにおいて夫に従いなさい。》**と。実に分かりにくいですね。

三、結婚の奥義と、キリストと教会

25節を見てまいります。《**夫たちよ。**

キリストが教会を愛し、教会のためにご自分を献げられたように、あなたも妻を愛しなさい。》とあります。25節から28節まで、夫たちへの教えが語られています。《**キリストと教会**》に移って行っています。ややこしいですね。もうお分かりのように、パウロは神がつくられた結婚という、夫と妻との関係と、キリストと教会との関係が重なるかと語っています。31節、32節を**《ご覧ください。》**《**それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである。／この奥義は偉大です。私は、キリストと教会を指して言っているのです。》**とあります。主イエス・キリストを唯一の救い主、また神と信じる共同体である「教会」は、キリストのからだであり、私たちはキリストのからだの部分です。その「教会」を、天におられるキリストは、夫が妻を愛するように愛し、また大切にしておられます。そこからの適用として、幸いな結婚を経験している人は、キリストが教会を愛しておられることが深く分かることです。それは、逆もまた然りでありまして、教会という、主イエス・キリストを信じる集まりの祝福を味わい知っている人は、結婚生活も祝福されることです。

きょうは、「結婚の奥義」と題してお語りしました。ですが、内容としては「結婚の奥義と教会」でした。